

(様式7-2)

会派政務調査活動・先進地調査等 精算書

2025年7月31日

三田市議会議長 様

本会派(私)は、会派政務調査活動・先進地調査に要した費用の精算結果を下記のとおり報告します。

会派名	公明党	代表者	大西 雅子
		議員名	大西 雅子
派遣者氏名	大西雅子、福田佳則、村手秀樹		
視察先	・隼Lab. (鳥取県八頭郡八頭町) ・北長瀬コミュニティフリッジ (岡山市)		
調査事項 (調査目的)	・廃校施設の利活用について (隼Lab.) ・公共冷蔵庫について (北長瀬コミュニティフリッジ)		
日時	令和7年 7月29日(火曜日)～令和7年 7月30日(水曜日)		
支払金内訳	科目	支出額	摘要
	宿泊料	40,500円	13,500円×3人
	日当	18,000円	3,000円/人日×2日×3人
	鉄道賃 (モ/レール)	61,320円	詳細は別紙3 20,440円/人×3人
	航空賃		
	バス賃		
	船賃		
	タクシー		
	その他	21,739円	手土産 (3,000円×2+税) 6,064円 隼Lab.視察料 5,500円 北長瀬コミュニティフリッジ 視察料 3,300円×3 →振込手数料 275円
合計	141,559円		
備考			

※100km未満の距離における特急利用、タクシー利用の理由は備考欄に記入。

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入してください。

個人支給の場合、会派名[無会派は記入不要]、議員名[代表者名は記入不要]を記入してください。

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

2025年 7月 31日

三田市議会議長

様

本会派（私）は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	公明党	代表者	大西雅子
		議員名	福田佳則
派遣者氏名	大西雅子 福田佳則 村手秀樹		
視察先及び調査事項 (調査目的)	・隼 Lab. (鳥取県八頭郡八頭町) 廃校施設の利活用について ・北長瀬コミュニティフレッジ (岡山市) 公共冷蔵庫について		
日 時	令和7年 7月 29日 (火曜日) ~ 令和7年 7月 30日 (水曜日)		
視察先対応者	隼 Lab. (鳥取県八頭郡八頭町) 八頭町役場 企画課地域戦略室主任 山田健吾 北長瀬コミュニティフレッジ 一般社団法人北長瀬エリアマネジメント代表理事 新宅宝		
(調査結果の概要及び所見) 別紙でも可			
別紙にて			

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入してください。

個人支給の場合、会派名[無会派は記入不要]、議員名[代表者名は記入不要]を記入してください。

公明党会派視察 2025年7月29日

隼 Lab.(鳥取県八頭郡八頭町)廃校施設の利活用について

視察先対応者:八頭町役場 企画課地域戦略室主任 山田健吾

【概要】

平成の大合併により3つの町が一つになった。当時は人口が2万人程度いた。この20年で5千人減少した。面積は200キロ平米で三田市とほぼ同じ。その約8割を山林が占めている。隼 Lab.は地域拠点の名称となる。廃校となった旧隼小学校を利活用する。八頭町の第1期総合戦略の取組としてスタートした。

【施設の内容】

コミュニティ複合施設。たくさんの企業がビジネスコミュニティの拠点として活用している。一方でカフェとして利用していたり、地域の福祉活動団体が入居していたり、誰でも自由に使えるレンタルスペースもある。地域コミュニティの拠点ともなっている。近年コロナの影響で廃校をコワーキングスペースに改修することも増えているが、隼 Lab.の特徴がビジネスコミュニティだけの特徴ではないと言える。

【整備に至るまでの課題】

人口減少、少子高齢化があげられる。若年層の流出が顕著。付随する問題として、小中学校の統廃合があった。11校を5校に統廃合した。残り6校の廃校後の利活用が当時の喫緊の課題であった。地域コミュニティの衰退、希薄化を問題視した。田舎でもあり学校を中心とした多様なコミュニティが形成されていることからコミュニティが衰退し、人がいなくなってしまうという悪循環が生まれかねないということでそうした諸課題への対応が求められていた。

【運営体制について】

八頭町が普通財産として所有している。町が所有した形で、民間企業シーセブンハヤブサに無償貸与している。

運営会社のシーセブンハヤブサが隼 Lab.を運営する。県内大手のIT企業、都市部の上場企業がそれぞれ出資する形で、シーセブンハヤブサを設立した。地元「TORIKUMI」という企業の代表者が代表を務めていることで、地域に受け入れられている要因となっている。地域側の中心は「隼創生会」。9つの自治体が参加している。地域合成が1本化されたことでスムーズな連携がとれている。多種多様な人たちに利用されている。

【地域について】

スズキの大型バイク愛好家が多く訪れる地域となっている。全国から2500台のバイクが集結したりもする。地域住民もオープンマインドの人が多い地域である。

廃校に伴い地域住民から人々が集まれる所として活用してほしいという要望が出て

きたことを受け、受け隼小学校を活用することになった。

【成果について】

現在、40の企業が入居する施設となっている。隼 Lab.できる以前は八頭町になかった企業も複数ある。平日は50人ぐらいが働いている。年間6万人ぐらいが訪れる。隼校区だけでいうと900人ぐらいの人口地域にこれだけの人が集まることは想像できなかった。賑わいの創出になっている。企業創業の拠点にもなっている。

【今後の展望について】

「未来の田舎プロジェクト」と銘打って取り組む。今後は地域外から企業を誘致して地域の課題解決につなげる。地域課題と企業をマッチングさせる。

【質問事項】

年間来場者数 昨年度は5万6千人

年齢層 30代40代も多く利用 高齢者もカフェなどを利用。

地域内外の比率 地域外の利用者が多いと思われる。鳥取市から通勤している人もいる。

利用者の感想 カフェの利用においても、リピーターも多いことから好印象と思われる。

地域課題解決に向けた効果 運動会の開催など地域コミュニティのひとつとして貢献していると思われる。

地域の担い手不足解消に向けて 具体的な解決への効果は出ていない。

【所見】

廃校後の利活用について先進事例を学ぶことができ、有意義な視察研修となった。当初は、地域住民にスペースを開放し地域コミュニティの場として活用していることを想像していたが、民間企業が参入し活用していることに驚いた。運営体制として、町が民間企業に土地・建物を無償貸与し、運営を任せている点である。ビジネス拠点として活用される一方で、地域と連携した事業展開を実施するなど、地域に根差した取組がなされている。行政、地域住民、民間企業それぞれが役割を担い責任を全うする関係性が構築されているところも特筆される点であると感じた。

三田市においても今後、中学校の統廃合が進みその跡地活用が課題となってくる。課題解決に向けて、官民連携における良い事例であると実感した。今回の視察で得た知見を参考にして三田市政発展に向け取組んでいきたい。(文責:福田佳則)

公明党 行政視察 北長瀬コミュニティフリッジ (岡山市)

■視察参加議員

大西雅子、福田佳則、村手秀樹

■視察日時：2025年7月30日(水) 10:00~11:30

■視察先：岡山県岡山市 北長瀬コミュニティフレッジ

■視察対応者：一般社団法人北長瀬エリアマネジメント代表理事 新宅宝

■視察概要及び質疑

【概要】

1. 岡山県岡山市の BRANCH 岡山北長瀬ハッシュタグ岡山にある、シングルマザーやシングルファザーなど、食料品・日用品を必要とする親子への支援を実施。
2. 視察内容：公共冷蔵庫について

【資料による説明】

- 北長瀬コミュニティフリッジ立ち上げの経緯について
 - ・岡山市の北長瀬駅前開発による商業施設・病院・公園等の整備がされた
 - ・暮らしやすい街を目指す中でコロナを乗り越えるため生活が苦しいシングルに対して行政として何をすればよいかを模索
 - ・行政と民間(ダイワリース)とで解決策を協議し策定
 - ・おかやま親子応援メールを立ち上げ、メルマガの発信、アンケートを実施し必要な支援の吸い上げをおこなう
 - ・アンケートの中から食料・日用品の支援が有効であることから立ち上げに取り組んだ
- 提供者(フードプレゼンター)や場所、生活に困難を感じている方等への取組について
 - ・提供者については、人件費をかけられないので提供場所まで持って来られることを条件としている
 - ・商品を提供していただく方法として、アマゾンなどで購入して届けていたたける手法も取り入れている
 - ・場所としては、人の目に触れないで24時間利用でき、駐車場に近いところとした
 - ・当初生活保護者も入れていたが、どうしてもマナーが悪くなり現在の形になった
- 空き家対策(平成25年から取り組み開始)
 - ・空き家バンク→移住希望者の受皿、空き家の有効活用する入口、仲介業者も活用
 - ・戸建て住宅ニーズバンク→家を探している人が希望条件を発信
 - ・空き家オーナー相談会→年2回相談会とセミナーを開催しオーナーの悩みを解決
 - ・空き家活用推進補助金→相続登記、家財撤去に対する補助金を実施
- 運営費用
 - ・公園の管理委託料の中で、スタッフも掛け持ちして行っている
 - ・行政からの助成はなし
- 課題
 - ・利用者のマナーやスタッフの認識の共有が課題

・商品の寄付だけでなく、自分のできることの寄付、学生・おばあちゃん・美容師などのボランティア活動を受け入れている

● 特徴

- ・シングルの方々として、同じような境遇の人が利用することへの安心感
- ・車の利用ができる人が利用
- ・電子ロックや防犯カメラの設置でトラブル防止やトラブル時の後追いができる
- ・寄付者も登録制として物の安全・安心を確保している
- ・現在、支援者1650人・152団体で500世帯を支援している

● 今後の取組

- ・移動コミュニティフリッジを災害支援として拡大していく
- ・コミュニティフリッジの全国展開 システム利用料15万円/月

【所感】

- ・公共冷蔵庫だけでなく、コミュニティフリッジとして食品ロスにもつなげている。
- ・運営をシステム化・DX化して少人数で運営できる仕組みであると感じた。
- ・行政でやると様々な規制がかかってくるが、民間でやると柔軟に対応できると感じた。
- ・利用者のターゲットを絞ることにより、安定した運営が可能になるように思う。
- ・民間企業のノウハウや知恵を活用し、柔軟な対応が実現している。

(村手秀樹)